

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091300018		
法人名	有限会社フィオーレ福祉会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	長野県飯山市大字飯山193番地		
自己評価作成日	平成21年9月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091300018&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所をしてくださった方には、この施設を終の住みかとして生活して頂ける様に、どのような状態となられても、かかりつけ医、協力病院と連携をしっかりと取りターミナルを迎えられる様に、職員の体制と、設備を整えて、安心して生活して頂ける様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯山市内の病院、買い物しやすい店、稲荷神社に隣接する平屋の清潔感のある建物が、有限会社フィオーレ福祉会グループホームすずらんである。フィオーレとはイタリア語で『花』という意味を持つという。管理者はイタリアを訪問し、高齢者に優しい助け合って生活している姿を見て、貧しくても心豊かに自分の人生を歩んでいると感じた。こんな姿に感動し、フィオーレ福祉会と名付け、グループホーム名をすずらんとした。その管理者の経験から、高齢となり重度となった利用者の生活の場を、年をとっても寝たきりになっても快適に過ごしていただくため、自分で開設に賛同。認知症という利用者を介護していくのに『技術』でなく『心』と感じる。寝たきりであっても基本を守れば床ずれもできないといい、管理者のホームに対する介護観の『心の介護』を職員に伝え、家族、利用者が安心して最期まで生活できるホームを目指している。そんな管理者の思いが切々と伝わってくるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(東棟)			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
ユニット名(西棟)							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと		
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない		
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように		
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度		
		3. たまにある			3. たまに		
		4. ほとんどない			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない		
		4. ほとんどいない			4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			1. ほぼ全ての家族等が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設として認知症ケアの基本理念は、事業所としての物を掲げて、職員は共有し、実践の場へつなげている。	「入居者の心身の安定を保ち、その人らしい生活が送れるように支援していきます」という理念を掲げ、管理者は理念の意味するところを時に触れ、職員が共有できるように話している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市、町会の事業、催し物への参加をし、ボランティアの方の訪問等、地域の人との交流を図りまた、認知症の方への理解も深めている事ができている。	町内会に入っており、会費を納め、町内会の役も果たしながら、稲荷神社のお祭りの参加呼びかけもあり、出かけている。厚生委員も引き受け町の一員としての役割も果たしている。日常的な買い物も出来る限りホームの近くで買うなど近隣との関係に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護、市、地域の人との交流の中で、認知症への理解を徐々に得る事が出来ている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービス提供の中での問題、相談、運営状況についての報告をして、必要があると思われる部分では、助言を得たり、安全についての消防訓練、避難訓練に参加を得て、多に協力をいただいている。	定期的な開催はなされていない。運営推進会議の重要性は管理者も理解はされている。	運営推進会議は、ホームを地域の方から支援していただくための良い機会と捉え、今後のホームの取り組みの理解や地域住民の協力を呼びかける場として今後定期的に2ヶ月ごとの開催が行われるよう、ホームの持つ特徴や管理者の熱い思いを発信できる良い機会となることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、介護保険課とは、密に連絡を取り、利用者さんの安全に向けて、協力体制を得て、ケアサービスが円滑であるように、指導、助言、協力を得ている。	利用者の意思を尊重し対応している中で権利擁護をしていくとき、身元引受人の方との話し合いの機会に包括支援センター職員や、市の職員の方の立会いをお願いして、話し合いの機会を設けたり、市町村との連携は大切にしている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないケアを全員で理解している。また、拘束についての研修への参加をして、職員会議の中でも、その情報を共有して、拘束はしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の取り組みは十分理解されており、拘束などなく利用者が安心して過ごせるように、ベッドでなく布団対応をしたり、利用者の様子や気持ちを大切に支援している姿がうかがえた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待をしないという意識をしっかりと持ち、弱い立場の利用者さんを守るという意識を常にもっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、また、市の包括支援センターの指導により、制度を理解し、必要な場合は活用ができるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わし、種々な状況への対応、対処について十分に理解を得て、納得をしてもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、希望については、常に表出出来る様に、また、管理者、ケアスタッフは受容ある気持で、日々運営に反映をしている。	利用者の生活が分かる様に、手紙を毎月の利用料に添えて家族の面会時に話がしやすい工夫をしている。また、家族が声かけしやすいように介護スタッフの顔写真も張り出し話しやすい場作りもしていく予定であるという。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティングの実施により、意見、提案を出せる時間、機会を作り、その意見を参考としてより良いケアに繋げている。	毎月1回の職員会議が開催され、その中で職員の意見を出してもらい、直ぐに話し合いを行い検討し改善される。また、毎日の仕事の中で管理者に相談しやすい環境である。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>給与、労働条件、やりがい等について、代表者としては、状況に応じて各自が向上心が持てるように、言葉がけ、条件の見直し、指導助言により整備に努力している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一人ひとりの実力、力量の把握、個性を知り、研修への参加、法人内での勉強会、実際の現場での助言などをして、意識の向上に努めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設の見学、交流会への参加等、数少ない機会であるが、その機会、出会いの場を大切にして、ケアの質の向上に努力をしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談から利用開始となるまで、本人の困っていること、不安、本当に必要としている事について、よく聞き取り受容して、安心できる関係作りにつとめている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを受けるまでの過程を知り、不安、要望をしっかりと知って受け止め、体制を整える。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたとき、利用者、家族が一番必要としている支援を見つめて、また、その他、どのようなサービスを提供すれば適切かを判断していく。</p>		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その利用者を見つめて、残っている能力を知り、やれる事を一緒にやって活動性を高め、また、一緒に暮らしていく関係をしっかりと築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流は、何時でも制限する事無く交流できる体制を整えて、実施出来ている。家族と共に本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の人生を知って、これまでの友人、親戚、血縁関係は常に大切に、ホームに入っても途切れる事の無いように、スタッフもサポートしている。	利用者の近隣に住む方が花を届けてくれたり、お茶のみに来ていただくなど継続した関係性が保てるように支援している。医療受診は必ず家族にお願いし、家族との関係性が途切れないように対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人は個性を持っているので、一人で寂しい事の無いように、スタッフは見守り、声かけ等、寄り添うことができる介護ができるように、努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方は、数名おられるが、再度の利用希望で来所、連絡をいただいたり、お宅を訪問をしたり、関係は大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の気持ちは、折にふれて、気持ちを伺い知ったり、その時々々の言動や、言葉の端から知るように努力をして、本人に寄り添える様に努めている。	センター方式で年齢別のアセスメントにより、利用者の生活歴からその人の人となりが理解でき、対応や気持ちがプランに反映できる。また、重度化しても利用者が安楽に生活していただくために介護方法なども個別に対応している。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族から、生活歴、環境、暮らし方、好みの物、嫌いな物等の情報を得て、本人を知り、ケアサービスをどの様にすれば良いか、本人の安心できる場所となるかに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の行動の一つ一つを観察、見守りにより、出来る事、出来ない事を知って、必要とする部分へのケアに努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く、安心して、安全に生活していくために、スタッフ全員が情報を共有できる場を作り、時間をとっている。全体会議、毎朝のミーティング、必要時のミーティング等の機会をしっかりと利用してケアに努めている。	月に1回の職員会議において、利用者全員の生活状況について話し合う。課題について話し合いを行い、個別のケアに結び付けている。家族の希望は入居時に詳しく話しを聞く。食事量の低下など今後の方針を決めていくときは家族と何回も話し合い、納得の行く対応が出来る様に支援している。	本人がよりよい生活を行うためには、家族や利用者の意見をその都度、反映しながら介護計画を作成し、家族への説明、署名を頂き、定期的な見直しを行う。また、随時、定期的なモニタリングの中でケアに対する評価なども記録に残し、継続された介護計画が作られることが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者全員の日々の記録、管理日誌への記載により、スタッフ全員が情報を共有してケア実践をしている。これを元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、家族の要望があれば、必要かしょ、またかかりつけ協力医等と相談し、出来る限り柔軟に対応をしていくこととしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会、市を通じて地元の方の協力、民生委員さんへの相談等、本人が希望している事への解決、またボランティアの方の訪問により、気分の転換を図り、地域の方との繋がりを深めて行く事を進めている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医との連携を常に大切にし、医療は大変適切に受ける事が出来ており、安全が確保できている。	利用者のかかりつけ医は基本的には在宅で診ていただいていた医師が継続される。受診時に看護師が同席して話を聞くこともある。安心して医療を受けられるように看護師が支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からナースの必要である情報は確実に伝わるように、ノートを利用して、適切な処置が少しでも早く受けられる様に体制を整えている。常に看護師がいる勤務体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し家族も安心できるように、また、早期退院が出来るように病院と連携を取りながら、相談、情報の交換に努めている。常に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に際しては、早期に家族と面談しかかりつけ医としっかり連絡を取り、意向を確認して対応をしている。意向に応じて書面にて方針を明確化して、家族、施設、医師と情報を共有し支援に当たっている。	重度化し経管栄養を8人の方が利用している。管理者が看護師であるために家族への適切なアドバイスや意向を確認し主治医との連携に努めている。家族も安心して利用できている。また、職員間の情報共有に努め利用者、家族が安心して生活できる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は全員急変の発生が無い様に、常に見守りと介護支援に努めている。看護師は常勤3名体制により初期対応処遇に努めている。また情報交換、情報共有が出来場を作り、実践の場で力を高める事に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練の実施により、緊急時への対応を身につけ、また地域の方の協力体制をいただける様をお願いをしたり、日赤、民生委員、市との協力体制もとっている。	年2回の避難訓練、防災訓練を行っている。消防署や地域の方も参加し避難訓練を行った。	避難を行ったときには、利用者の不安をあらかじめ誰が見守りするのか、地域の方の支援は何をしていただくのか、重度の方もいるために搬送の方法など誰が見ても迷わず搬送できる方法などの考慮も、具体的な役割のもと訓練がなされることを期待したい。

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損ねる様な、介護、支援をする事の決して無いように、言葉、対応には十分注意しているが、管理者として気が付いた時はスタッフに指導をして、利用者の尊厳を守るように努めている。	利用者の尊厳を損ねる声かけは日常の中で検討し対応できるようにしている。排泄介助においても大きな声で誘導することなく、利用者は一人のプライドある高齢者と理解し声掛けできるように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方が、生活の中で自分のやりたい事、行きたい所、思いを表出ができ、決定ができる様に働きかけ、寄り添う事ができる様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の思いや、都合で一日を過ごすのではなく、その方の行動を大切にして、その方の状況を見ながら生活ができる様に支援をしていく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の来所、また毎日のケア、洗顔、歯磨き、(爪切り、髭剃り)により、常に清潔を保ち、気分の良い生活を過ごせる様に支援している。衣服も好きなものを着て過ごしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの野菜切り、米とぎ、盛り付け、片付け等、各々が出来る事をスタッフの手伝いをして、生活の満足感を持ちながら過ごすことの支援に努めている。また、しっかりと見守りをして事故の無い様に支援している。	利用者の能力を十分理解し、お盆を毎回拭いてくれる利用者の姿が見受けられた。頼りにされ出来ることを行うことが利用者の誇りにつながっている。高齢となり年々出来ることが変わってくるが、野菜の皮をむいたり片付けを行ったり職員と共に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の摂取量の把握、水分量の把握をして、管理日誌、介護記録への記載により、一人ひとりの体調をスタッフ全員で把握している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはしっかりと実施をして、健康管理に努めている。口腔ケアにより、皮膚の観察、嚥下力の確認なども出来ている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツにしない努力をしている。排泄パターン確認によりトイレ誘導の実施、見守り、声がけによりオムツを減らしていく状況に努めている。	パットは1日1 - 2枚利用しているだけである。排泄パターンを理解しトイレにお連れすることで、オムツ外しにつながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因の把握をして解決策を考え、全体的には散歩、体操、食事への配慮をして各々、個々に応じた対応策を見つけ出し支援をしている。また記録と、全員の情報共有により、体操、体位交換、水分摂取量のチェック等により排便を促すよう努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	習慣のスケジュールは有るが、必要、希望に応じて入浴できる体制をとっている。また手浴、足浴も実施し手足の清潔を保つことに努めている。	週2回の入浴スケジュールはあるが利用者が気が進まない時など、入っていただくのが大変なときもあるが、時間や日にちを変えて入浴できる体制がある。また、重度の利用者には、移動式の浴槽があり、職員も利用者も安心して入れる体制がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時は、本人の生活習慣も考慮して入眠時間に対応しているが、日中の行動、活動量のアップにより個々のペースが決まってくる。ゆったりと生活ができ、安眠できるよう支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のかかりつけ医から処方されている薬の目的、副作用、用法、用量については、全員が把握できる様に、服用薬カードをファイルして、ナース指導のもと服用管理をしている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく喜びのある生活を過ごせる様に、レクリエーション、一人ひとりの能力、できる事を判断して、気分の転換への援助まで生活の中で役割をはたすことができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	毎日の散歩、家族とお出かけ、買い物、食事等スタッフの介護、家族友人との支援で、本人の希望をも考慮に入れながら安全に実施をしている。	訪問時にもボランティアの方が利用者と外出から帰ってくる姿が見受けられた。天気の良いときは毎日の散歩に出かける。家族が食事に連れて行ってくださることもある。近くへの買い物なども利用者の意見を聞いて一緒に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っている事の満足感、安心感を得られるように利用者の状況を見ながら、お金を所持したり、使える様にして、買い物の楽しさ、外出の楽しさを味わってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって、不快や混乱を招くような刺激が無い様配慮し、居心地よく過ごせる様工夫をしている。	食堂スペースには敬老会の写真が利用者と一緒に飾られ、季節感あふれる飾りつけをしてある。共有空間で居心地よさそうにボランティアの方と歌を歌っている姿があった。夏にはベランダでお茶を飲むスペースもあり、穏やかな生活空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせる様な居場所の工夫をしている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	自室にはクローゼットが備え付けられており、衣類などの整理には都合が良い。一人ひとりの落ち着く空間づくりと利用者に合った寝具の工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を活かし、安全と出来る限り自立した生活ができる様に、環境を整えて、慣れることが出来る様に支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設として認知症ケアの基本理念は、事業所としての物を掲げて、職員は共有し、実践の場へつなげている。	「入居者の心身の安定を保ち、その人らしい生活が送れるように支援していきます」という理念を掲げ、管理者は理念の意味するところを時に触れ、職員が共有できるように話している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市、町会の事業、催し物への参加をし、ボランティアの方の訪問等、地域の人との交流を図りまた、認知症の方への理解も深めている事ができている。	町内会に入っており、会費を納め、町内会の役も果たしながら、稲荷神社のお祭りの参加呼びかけもあり、出かけている。厚生委員も引き受け町の一員としての役割も果たしている。日常的な買い物も出来る限りホームの近くで買うなど近隣との関係に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護、市、地域の人との交流の中で、認知症への理解を徐々に得る事が出来ている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービス提供の中での問題、相談、運営状況についての報告をして、必要があると思われる部分では、助言を得たり、安全についての消防訓練、避難訓練に参加を得て、多に協力をいただいている。	定期的な開催はなされていない。運営推進会議の重要性は管理者も理解はされている。	運営推進会議は、ホームを地域の方から支援していただくための良い機会と捉え、今後のホームの取り組みの理解や地域住民の協力を呼びかける場として今後定期的に2ヶ月ごとの開催が行われるよう、ホームの持つ特徴や管理者の熱い思いを発信できる良い機会となることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、介護保険課とは、密に連絡を取り、利用者さんの安全に向けて、協力体制を得て、ケアサービスが円滑であるように、指導、助言、協力を得ている。	利用者の意思を尊重し対応している中で権利擁護をしていくとき、身元引受人の方との話し合いの機会に包括支援センター職員や、市の職員の方の立会いをお願いして、話し合いの機会を設けたり、市町村との連携は大切にしている。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないケアを全員で理解している。また、拘束についての研修への参加をして、職員会議の中でも、その情報を共有して、拘束はしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の取り組みは十分理解されており、拘束などなく利用者が安心して過ごせるように、ベッドでなく布団対応をしたり、利用者の様子や気持ちを大切に支援している姿がうかがえた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待をしないという意識をしっかりと持ち、弱い立場の利用者さんを守るという意識を常にもっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、また、市の包括支援センターの指導により、制度を理解し、必要な場合は活用ができるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わし、種々な状況への対応、対処について十分に理解を得て、納得をしてもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、希望については、常に表出出来る様に、また、管理者、ケアスタッフは受容ある気持で、日々運営に反映をしている。	利用者の生活が分かる様に、手紙を毎月の利用料に添えて家族の面会時に話がしやすい工夫をしている。また、家族が声かけしやすいように介護スタッフの顔写真も張り出し話しやすい場作りもしていく予定であるという。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティングの実施により、意見、提案を出せる時間、機会を作り、その意見を参考としてより良いケアに繋げている。	毎月1回の職員会議が開催され、その中で職員の意見を出してもらい、直ぐに話し合いを行い検討し改善される。また、毎日の仕事の中で管理者に相談しやすい環境である。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>給与、労働条件、やりがい等について、代表者としては、状況に応じて各自が向上心が持てるように、言葉がけ、条件の見直し、指導助言により整備に努力している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一人ひとりの実力、力量の把握、個性を知り、研修への参加、法人内での勉強会、実際の現場での助言などをして、意識の向上に努めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設の見学、交流会への参加等、数少ない機会であるが、その機会、出会いの場を大切にして、ケアの質の向上に努力をしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談から利用開始となるまで、本人の困っていること、不安、本当に必要としている事について、よく聞き取り受容して、安心できる関係作りにつとめている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを受けるまでの過程を知り、不安、要望をしっかりと知って受け止め、体制を整える。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたとき、利用者、家族が一番必要としている支援を見つめて、また、その他、どのようなサービスを提供すれば適切かを判断していく。</p>		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その利用者を見つめて、残っている能力を知り、やれる事を一緒にやって活動性を高め、また、一緒に暮らしていく関係をしっかりと築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流は、何時でも制限する事無く交流できる体制を整えて、実施出来ている。家族と共に本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の人生を知って、これまでの友人、親戚、血縁関係は常に大切に、ホームに入っても途切れる事の無いように、スタッフもサポートしている。	利用者の近隣に住む方が花を届けてくれたり、お茶のみに来ていただくなど継続した関係性が保てるように支援している。医療受診は必ず家族にお願いし、家族との関係性が途切れないように対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人は個性を持っているので、一人で寂しい事の無いように、スタッフは見守り、声かけ等、寄り添うことができる介護ができるように、努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方は、数名おられるが、再度の利用希望で来所、連絡をいただいたり、お宅を訪問をしたり、関係は大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の気持ちは、折にふれて、気持ちを伺い知ったり、その時々々の言動や、言葉の端から知るように努力をして、本人に寄り添える様に努めている。	センター方式で年齢別のアセスメントにより、利用者の生活歴からその人の人となり理解でき、対応や気持ちがプランに反映できる。また、重度化しても利用者が安楽に生活していただくために介護方法なども個別に対応している。	

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族から、生活歴、環境、暮らし方、好みの物、嫌いな物等の情報を得て、本人を知り、ケアサービスをどの様にすれば良いか、本人の安心できる場所となるかに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の行動の一つ一つを観察、見守りにより、出来る事、出来ない事を知って、必要とする部分へのケアに努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く、安心して、安全に生活していくために、スタッフ全員が情報を共有できる場を作り、時間をとっている。全体会議、毎朝のミーティング、必要時のミーティング等の機会をしっかりと利用してケアに努めている。	月に1回の職員会議において、利用者全員の生活状況について話し合う。課題について話し合いを行い、個別のケアに結び付けている。家族の希望は入居時に詳しく話しを聞く。食事量の低下など今後の方針を決めていくときは家族と何回も話し合い、納得の行く対応が出来る様に支援している。	本人がよりよい生活を行うためには、家族や利用者の意見をその都度、反映しながら介護計画を作成し、家族への説明、署名を頂き、定期的な見直しを行う。また、随時、定期的なモニタリングの中でケアに対する評価なども記録に残し、継続された介護計画が作られることが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者全員の日々の記録、管理日誌への記載により、スタッフ全員が情報を共有してケア実践をしている。これを元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、家族の要望があれば、必要かしょ、またかかりつけ協力医等と相談し、出来る限り柔軟に対応をしていくこととしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会、市を通じて地元の方の協力、民生委員さんへの相談等、本人が希望している事への解決、またボランティアの方の訪問により、気分の転換を図り、地域の方との繋がりを深めて行く事を進めている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医との連携を常に大切に、医療は大変適切に受ける事が出来ており、安全が確保できている。	利用者のかかりつけ医は基本的には在宅で診ていただいていた医師が継続される。受診時に看護師が同席して話を聞くこともある。安心して医療が受けられるように看護師が支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からナースの必要である情報は確実に伝わるように、ノートを利用して、適切な処置が少しでも早く受けられる様に体制を整えている。常に看護師がいる勤務体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し家族も安心できるように、また、早期退院が出来るように病院と連携を取りながら、相談、情報の交換に努めている。常に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に際しては、早期に家族と面談しかかりつけ医としっかり連絡を取り、意向を確認して対応をしている。意向に応じて書面にて方針を明確化して、家族、施設、医師と情報を共有し支援に当たっている。	重度化し経管栄養を8人の方が利用している。管理者が看護師であるために家族への適切なアドバイスや意向を確認し主治医との連携に努めている。家族も安心して利用できている。また、職員間の情報共有に努め利用者、家族が安心して生活できる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は全員急変の発生が無い様に、常に見守りと介護支援に努めている。看護師は常勤3名体制により初期対応処遇に努めている。また情報交換、情報共有が出来場を作り、実践の場での力を高める事に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練の実施により、緊急時への対応を身につけ、また地域の方の協力体制をいただける様をお願いをしたり、日赤、民生委員、市との協力体制もとっている。	年2回の避難訓練、防災訓練を行っている。消防署や地域の方も参加し避難訓練を行った。	避難を行ったときには、利用者の不安をあらかじめ誰が見守りするのか、地域の方の支援は何をしていただくのか、重度の方もいるために搬送の方法など誰が見ても迷わず搬送できる方法などの考慮も、具体的な役割のもと訓練がなされることを期待したい。

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損ねる様な、介護、支援をする事の決して無いように、言葉、対応には十分注意しているが、管理者として気が付があった時はスタッフに指導をして、利用者の尊厳を守るように努めている。	利用者の尊厳を損ねる声かけは日常の中で検討し対応できるようにしている。排泄介助においても大きな声で誘導することなく、利用者は一人のプライドある高齢者と理解し声掛けできるように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方が、生活の中で自分のやりたい事、行きたい所、思いを表出ができ、決定ができる様に働きかけ、寄り添う事ができる様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の思いや、都合で一日を過ごすのではなく、その方の行動を大切にして、その方の状況を見ながら生活ができる様に支援をしていく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の来所、また毎日のケア、洗顔、歯磨き、(爪切り、髭剃り)により、常に清潔を保ち、気分の良い生活を過ごせる様に支援している。衣服も好きなものを着て過ごしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの野菜切り、米とぎ、盛り付け、片付け等、各々が出来る事をスタッフの手伝いをして、生活の満足感を持ちながら過ごすことの支援に努めている。また、しっかりと見守りをして事故の無い様に支援している。	利用者の能力を十分理解し、お盆を毎回拭いてくれる利用者の姿が見受けられた。頼りにされ出来ることを行うことが利用者の誇りにつながっている。高齢となり年々出来ることが変わってくるが、野菜の皮をむいたり片付けを行ったり職員と共に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の摂取量の把握、水分量の把握をして、管理日誌、介護記録への記載により、一人ひとりの体調をスタッフ全員で把握している。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはしっかりと実施をして、健康管理に努めている。口腔ケアにより、皮膚の観察、嚥下力の確認なども出来ている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツにしない努力をしている。排泄パターン確認によりトイレ誘導の実施、見守り、声かけによりオムツを減らしていく状況に努めている。	パットは1日1 - 2枚利用しているだけである。排泄パターンを理解しトイレにお連れすることで、オムツ外しにつながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因の把握をして解決策を考え、全体的には散歩、体操、食事への配慮をして各々、個々に応じた対応策を見つけ出し支援をしている。また記録と、全員の情報共有により、体操、体位交換、水分摂取量のチェック等により排便を促すよう努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	習慣のスケジュールは有るが、必要、希望に応じて入浴できる体制をとっている。また手浴、足浴も実施し手足の清潔を保つことに努めている。	週2回の入浴スケジュールはあるが利用者が気が進まない時など、入っていただくのが大変なときもあるが、時間や日にちを変えて入浴できる体制がある。また、重度の利用者には、移動式の浴槽があり、職員も利用者も安心して入れる体制がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時は、本人の生活習慣も考慮して入眠時間に対応しているが、日中の行動、活動量のアップにより個々のペースが決まってくる。ゆったりと生活ができ、安眠できるよう支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のかかりつけ医から処方されている薬の目的、副作用、用法、用量については、全員が把握できる様に、服用薬カードをファイルして、ナース指導のもと服用管理をしている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく喜びのある生活を過ごせる様に、レクリエーション、一人ひとりの能力、できる事を判断して、気分の転換への援助まで生活の中で役割をはたすことができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、家族とお出かけ、買い物、食事等スタッフの介護、家族友人との支援で、本人の希望をも考慮に入れながら安全に実施をしている。	訪問時にもボランティアの方が利用者と外出から帰ってくる姿が見受けられた。天気の良いときは毎日の散歩に出かける。家族が食事に連れて行ってくださることもある。近くへの買い物なども利用者の意見を聞いて一緒に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っている事の満足感、安心感を得られるように利用者の状況を見ながら、お金を所持したり、使える様にして、買い物の楽しさ、外出の楽しさを味わってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって、不快や混乱を招くような刺激が無い様配慮し、居心地よく過ごせる様工夫をしている。	食堂スペースには敬老会の写真が利用者と一緒に飾られ、季節感あふれる飾りつけをしてある。共有空間で居心地よさそうにボランティアの方と歌を歌っている姿があった。夏にはベランダでお茶を飲むスペースもあり、穏やかな生活空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせる様な居場所の工夫をしている。		

外部評価結果(グループホームすずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	自室にはクローゼットが備え付けられており、衣類などの整理には都合が良い。一人ひとりの落ち着く空間つくりと利用者に合った寝具の工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を活かし、安全と出来る限り自立した生活ができる様に、環境を整えて、慣れることが出来る様に支援している。		